

脇本海岸 渚だより

第14号(期間:2025年4~6月)

発行元;NPO法人脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
鹿児島県阿久根市

他の最新記事はFBページをご覧ください

<https://www.facebook.com/kamechidori>

当NPOの全体像や渚だよりのバックナンバー

などはホームページをご覧ください

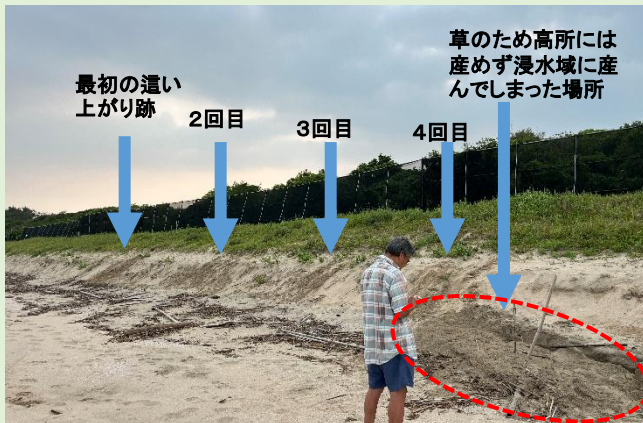
<https://npokamechidori.com/>



6/14 ウミガメ初上陸

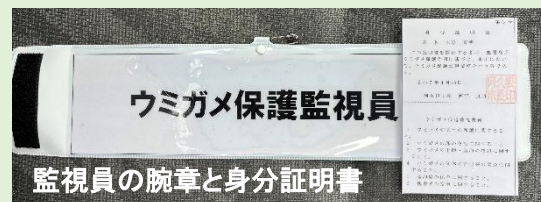
(保護活動)

過去2年は6月1日に上陸があったのに、今年はなかなか上陸せずやきもきしていましたが、ようやく6月14日に初上陸・産卵しました。浸水場所のため119個の卵を移設しました。2回目の産卵は6月30日で、堤防際の砂場に這い上がって草の生えた砂場を掘ろうとしたようですが、掘れずに砂の段差を4回上り下りした後、ついに浸水する場所に産卵してしまったようです。近くの高所に150個の卵を移設しました。



海岸駐車場の同時閉鎖が実現(保護活動)

来海者が利用できる駐車場は4か所あり、北からグランピング横(はしコーポレーション管理)、鳥飼駐車場(NPOカメチドリ管理)、牟田駐車場(海の家サンフラワー管理)、岩船駐車場(折口5集落共同管理)です。それぞれの管理者の了解を得て夏場は19時半までに閉鎖するのでウミガメの産卵環境を守ることができます。



ウミガメ保護監視員が任命される (保護活動)

県の自然保護課よりNPOメンバー7名が本年度のウミガメ保護監視員に任命されました。脇本海岸でも25年前まではこの監視員が任命されていたので復活したことになります。夜間の海岸巡回を中心に、砂浜に漏れる光や侵入者を監視し、行政と警察の協力を得て対処します。

海岸・周辺に生息するカニの調査 (保護活動)

脇本海岸のカニといえば、貝堀や砂遊びでよく出会うキンセンガニ(下記左の写真)で、あっという間に砂に潜ることで知られています。全国的に砂浜が減少し、カニ類も減少しているといわれています。脇本海岸では絶滅危惧種のハクセンオマネキ(右写真)を含め、数種類のカニがいることはわかっていますが、何種類のカニがいるのか、増減はどうかかなど実態がわかっていませんでした。そこで、鹿児島大学のカニの専門の鈴木名誉教授に来て頂き、海岸のカニを調べてもらいました。すると13種類ものカニがいることがわかり、ほとんどの種類のオスとメスを採集できました。



脇本海岸で撮影

脇小生は海岸の動植物に興味津々

(啓蒙・教育活動)



今年も、脇本小3年生の自然保護について学ぶ海岸イベントと座学を支援しています。ウミガメ講座は例年の定番ですが、今年はシロチドリの産卵が確認できない異常な状況にあるため、シロチドリの単独講座ではなく、他の鳥とカニの紹介も含めた「鳥&カニ講座」へ変更しました。今年の3年生も珍しい映像に声を上げ、講義が終わるや否や質問の嵐で講師はうれしい悲鳴でした。残る1講座は7月に、生徒の学びの発表会になるとのことで楽しみです。

脇本海岸の夕景色

海岸は四季折々に、また1日のなかでも違う顔を見せてくれます。日が沈む前に一瞬しか見られない光景を集めてみました。毎日の自然保護活動の終わりに、偶然に出会える夕映えに心奪われます。



岩船側から愛宕鼻を臨む



愛宕鼻から見る東シナ海



松林から愛宕鼻を臨む



海岸正面に浮かぶ阿久根大島と桑島



深田の番
所ヶ鼻方
面を臨む

